

環境ニュースレター 秋号

NOW



特定非営利活動法人

Vol. 67

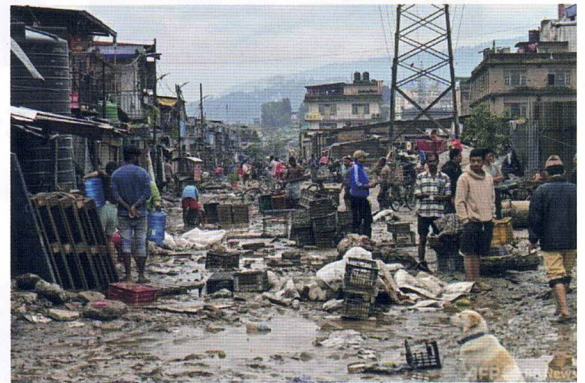
発行者 NPO 法人 環境21の会 理事長 松本 弘
明石市松が丘2丁目2-6
明舞第2センタービル2階 明舞まちづくり交流拠点内
Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp
<http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21noka>
発行: 春・秋・年2回

環境21の会

ネパール土石流発生に感じたこと

会員 吉岡昌子

イギリスの研究者クルダード教授の分析によれば、中国とネパールの国境付近での垂直氷河崩壊による土石流の発生が2億立方メートル氷河は4000万立方メートルの大きさだったと話している。下流20キロメートルまでは時速120キロ平米の速さで水の量は少なく、その後、川の水を含み鉄砲水状態の土石流となり勢いを増していった。土石流は谷底から最大16m～4m堆積しており、救助も大変な状態のようだ。近くの小さな夙川でも下流は天気だが上流の雨であつという間に鉄砲水となり、水の勢いは増し川下の水量が瞬時に増し川床で遊んでいた人が溺れ死ぬ事



がありました。水の勢いの強さは地形的影響や土、岩などにより勢いが増すとともに、この国のインフラ整備が都会から離れるほど出来てない、もろさも影響しているのではと思える。5年近く前ヌワコットの山頂の小学校訪ねた時、全部では無いが、路面の山側は山崩れガードレールの無い急峻な谷側は20センチほどの幅を残した悪路を走ったものです。又山陰の谷を通過するときはどこからか自然流水が出て道路上を小さな小川となって流れているこの様な箇所が無数にあり道普請しながら通った覚えがあります。

奥地に行くほどに、ヒマラヤの山々の神々しさ、静寂感があるものの高地の人々の貧しさは反比例状態で途上国の宿命の中で人々は懸命に生きている姿を垣間見たものです。

文明発展国は多くの欲望を凌牙するため、エネルギーを多大に使い、CO₂の排出を当たり前に行うことが一つの原因として地球温度の上昇を招き、この氷河下の永久凍土のゆるみ、温度上昇により地盤沈下を起こし崩壊へとつながる。全てが温暖化の影響とは言われないが氷河の後退により湖が増えている事は否めない。又、中国側でのダム建設の影響もあるのではとも言われる。ネパールのみで無く国境を超えた川下の各国にもこの崩壊、危険の影響が多数見られるとの調査もある。

水害は下流のアジアの国々への影響が多大になると言われています。今後の農作物への影響は世界へも派生していく可能性は大きいものと思われる。しかし、ネパール自身のCO₂の排出は極めて少ない(大きなCO₂排出する産業は少ない)にもかかわらず、地球規模の危機に対しては大きな代償を払わされている。ネパール外相は「地球規模の気候変動の結果だ」と談話、関係各国に保証を求めている。

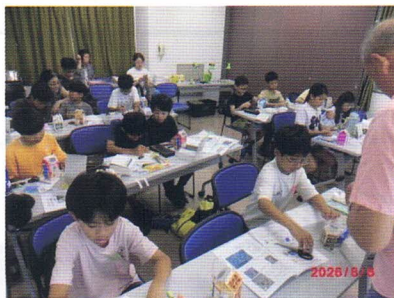
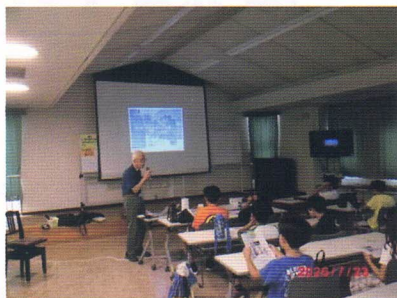
今、私たちが何をすれば良いのかに視点を向けていかなければならないと思います。

- 1、ネパールに対しては、早急に支援活動に参加し少しでも早く復興を助きたい。
- 2、我々の目的の一つ、微々たるものでも温暖化防止活動実践、啓蒙をおし進めていくこと。
- 3、行政も色々具体的なCO₂削減方法を実施しているがボランティア団体として具現化方法を広く皆に伝えていく。
- 4、西宮市で課外授業をしている宮水ジュニア出前教室は子供達への啓蒙力は大きく、これを学校教育の中へも広げ多くの児童生徒をつうじて効果増を願い育てたい。

令和8年4月～令和8年9月活動実績

1. 西宮市宮水ジュニア「たのしい科学体験教室」(夏期 7月～8月) 用海公民館で開催

- 7月23日 「地球温暖化と省エネ」を学習し、照明器具や電気製品の待機電力など省エネ実験。
 8月 6日 「自然エネルギー・太陽光発電」を学習し、太陽光発電による電子オルゴールを工作。
 8月12日 「海のはたらきと自然エネルギー」を学習し、ペットボトルで浮沈子を工作。
 8月20日 「自然エネルギー・風力発電」を学習しペットボトルで風車を作り、発電実験。



2. 播磨町中央公民館「夏休みこども教室」(保護者同伴)

- 7月26日 夏休み「太陽光発電」を学習し、ソーラーオルゴールを工作した。
 8月11日 夏休み「地球温暖化と海の環境」を学習し、ペットボトルで浮沈子を工作した。



3. ひょうご環境創造協会 出前環境教室「おもしろ科学体験教室」

- 7月 5日 播磨町野添コミセン「温暖化と自然エネルギー」を学習し、ソーラーカー＆お魚ドーム工作をした。
 7月22日 西宮段上児童館「温暖化と太陽光」を学習し、スタンドグラス工作をした。
 7月25日 たつの市立新宮公民館「温暖化と海の環境」を学習し、お魚ドーム工作をした。
 8月21日 宝塚市東公民館「温暖化と太陽光」を学習し、ソーラーカー＆ソーラーオルゴール工作をした。



4. その他

- 4月15日～12月
 淡路五色町の休耕地
 を利用してケナフを
 栽培している。



- 9月27日 ガールスカウト

稲美町野外活動センター「デコ活とエコクッキング」の学習と段ボール窯で「ピザ焼き」

アイルランドの温暖化への取り組み

会員 宇野健一郎

9月6日)から9月12日にアイルランドの首都ダブリンから北に 60Km にある人口5万のドラハダの街に 1 週間滞在しました。昨年、ケンブリッジ・ロンドンの取り組みについてみてきましたが、5回目のアイルランドでは地球温暖化・環境問題の観点から国内を観察してみました。

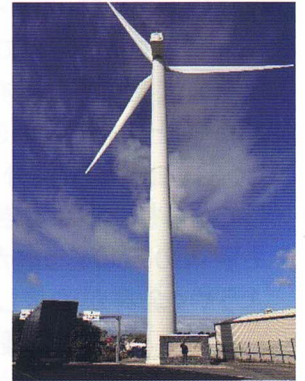
【風力発電】

アイルランドの風力発電は、同国の再生可能エネルギー政策の中心です。特に、風の強い大西洋側の地理条件を生かして、陸上風力から洋上風力へと大きく拡大しようとしています。

2025年、風力発電が国内で発電された電力の約40%を占め、ガス火力の47%に次ぐ規模で、再生可能エネルギーでは最大です。アイルランドが風力発電に向いている主な理由は、

- 大西洋から強い偏西風が吹く
- 国土が比較的平坦で、風力資源が豊富
- 人口密度が低い地域があり、陸上風力を設置できる場所がある
- 周囲を海に囲まれており、洋上風力の潜在力が非常に大きい

という点です。特に洋上風力は、陸上よりも強く安定した風を利用できるため、アイルランドにとって将来の重要な電源と考えられています。アイルランド政府は2030年までに80%の電力を再生可能エネルギーで賄うことを目標にしています。実際、アイルランドの風力発電比率は、2010年:約10%、2025年:約38%と、15年間で大きく上昇しています。ちなみに、風力発電の比率の高さでは世界第4位です。



【クリーンセンター】

写真はクリーンセンターです。自分の車で運べば電気製品・大型ゴミはなんでも4ユーロ 720円程度で廃棄できます。



【リサイクルの取り組み】

アイルランドのスーパーマーケットのリサイクルの取り組みは Deposit Return Scheme (DRS) / Re-turn という「デポジット返金制度」です。Tesco は全店舗に回収機 (Reverse Vending Machine) を設置しています。対象の「Re-turn」マークの付いた PET ボトル・アルミ缶・スチール缶飲料を購入すると商品代とは別に容器代としてデポジットを支払う。飲み終わった空容器を Tesco の回収機に入れると回収機から返金用バウチャー (割引券) が出てくる。回収には「容器が空であること、大きく潰れていないこと、バーコードが読み取れること、Re-turn マークがあること」が基本条件。買い物代金からの値引きだけでなく換金もできる。この制度はデポジットを返金してもらうためには必ず回収機に入れる必要があるため、リサイクルが確実に行われる仕組みとなっており、同様のモデルの導入を検討しているイングランドやウェールズなどの国にとって参考となっています。アイルランドでは循環型経済への移行を目指し、2030年までに食品ロスの半減と全パッケージのリサイクル化が推進されています。



その他にも世界遺産環境保護に電動バスが導入され、世界遺産の景観や自然環境への負荷を減らしています。アイルランドでも環境保全への様々な取り組みが行われていますが、近年日本国内における猛暑や集中豪雨、ヒマラヤ山脈の氷河の崩壊によるネパールの大規模な土石流災害など、気候変動に起因した災害が増え激甚化してきています。温暖化対策は地球規模で取り組んでいくべき待ったなしの課題であり、私たち一人一人が個人として、省エネや移動手段の見直し、食品ロスの削減、ごみの分別やリサイクルなどできることから一步一步取り組んで行く必要があることを痛感しました。

蝉の羽化に思う

会員 松本 弘

今年も蝉の話題を書いてみました。

蝉の鳴き声、特にクマゼミの「シャイシャイ」の鳴き声はうるさいけれど鳴かないと寂しいです。

今年も昨年と同様にわずかな期間だけ蝉の声が聞こえましたが、すぐに聞こえなくなりました。蝉は気温が35℃近くになると鳴かなくなるのは暑さのため体温が上昇するので、鳴くのを止めて体力を温存するそうです。8月の猛暑の影響でしょうか。数年間、土の中で過ごしてようやく羽化できる体になって、地上に出てきたから大声で鳴いて、雌のパートナーを見つけようと頑張るのです。蝉が安心して大声で鳴ける環境にしてあげたいですね。

この度、蝉が羽化する瞬間を見つけました。ゆっくりと羽化していきます。さなぎから顔を出し、羽を出すまで何分もかかり、さらに羽根を出してからもしばらく動きません。その姿はあたかも周囲の環境をうかがっているようで、その後、ようやく全身が脱皮し、飛び立っていきました。

私たちが地球温暖化を身近に感じることはもう少し先かも知れませんが、人の社会よりもこうした生き物たちは確実の気候の変化を感じているようです。



羽化を始めて羽根はまだありません



羽ができてそのまま数十分動きません。

今後の活動スケジュール

月 日		場 所	内 容
10月7日	水	明舞まちづくり交流拠点	例会・理事会 Now 秋号 Vol67発行 広報発送
10月17日	日	あかし市民広場	エコウィング明石秋の環境フェア
11月4日 ～11月11日		明舞まちづくり交流拠点	明舞祭(合同展示会)広報&環境教室作品出展
11月4日	水	明舞まちづくり交流拠点	例会・理事会
11月7日 ～11月8日		三木市金物まつり	広報&環境教室作品出展とアートフラワーリース作り
11月15日	日	三木市フェスタ	広報&環境教室作品出展

【会員随時募集中】

地球温暖化防止活動などに関心がある方、下記事務局に連絡をお願いします。

〒673-0862 明石市松が丘2丁目2-6

明舞プラザビル 2 階 明舞まちづくり交流拠点内

NPO法人 環境21の会事務局

電話&FAX: 078-914-5546

E メール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp

ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21nokai>



編集後記

今年の夏は猛暑と気象の極端現象が頻繁に起こり、大変な被害をもたらしました。地球温暖化の危機は迫ってきています。これからも本誌で発信続けますのでご愛読よろしくお願いいたします。

本誌はひょうご環境創造協会のご支援の下、発行しています。